

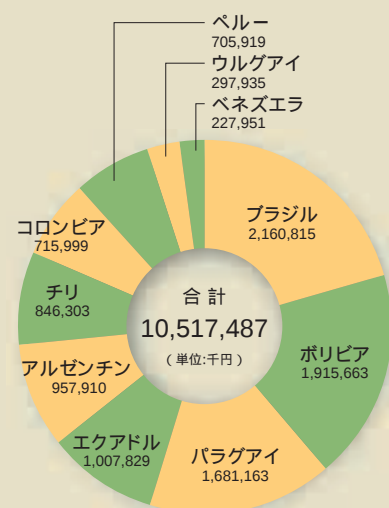
南米

South America



援助の柱 各国内と国家間の格差を是正し持続可能な開発をめざす

■ 南米各国への協力実績（2005年度）



* 上記円グラフの金額は二国間協力実績です。国をまたぐ協力などを含む北米・中南米地域(中米・カリブ、南米)全体に対する協力実績は、21,184,385千円です。

南米地域では、公営事業の民営化や貿易自由化に向けた動きが進んでいます。また、地域内の国々は歴史、文化、言語、社会背景など多くの要素を共有しているため、域内協力や経済統合への動きも活発です。しかし、域内には比較的高い経済水準を達成している国々(中進国)と低い水準の国々(貧困国)が混在しています。同時に、中進国も国内に局所的な貧困問題を抱え、順調な経済成長に反して貧困層が拡大しています。こうした貧困問題は、政治・経済の不安定化と麻薬・治安などの社会問題や環境問題を引き起こす要因となっています。「人間の安全保障」の観点から見ても、その解決は各国政府の優先課題であり、国際的な支援が必要です。

南米地域が保有する天然資源、食糧供給力、経済規模は大きく、この地域の政治経済が混乱したり、環境破壊が進行したりすると、世界経済や地球環境にも影響が及ぶ可能性があります。

JICAは南米地域に対して、各国内の格差と国家間の格差を是正し、持続可能な開発を実現するため、「人間の安全保障」の視点を重視して、以下の重点課題に取り組んでいます。

- 貧困削減と格差是正
- 経済の持続的成長
- 地球的規模の問題への取り組み
- 平和の構築と社会的弱者への支援
- 地域の動向や特徴をふまえた広域協力と南南協力の推進
- 日系人社会との積極的な連携

開発の現況

南米地域は、植民地支配に端を発し、歴史的に社会格差が著しい地域です。1980年代には国際通貨基金(IMF)や世界銀行の主導で、新経済自由主義政策による経済改革が推進されました。この結果、経済成長を遂げる一方で、多くの国々で格差の拡大、貧困層の増加、社会不安の増大などの問題が深刻化しました。

南米諸国の経済は一次産品に大幅に依存しており、世界経済の動向に著しく左右されてきました。持続的に安定した経済成長を遂げていくためには、中小企業振興を含む投資環境整備や貿易振興策などへの支援や、ガバナンスの向上に向けた支援が必要となっています。

貧困問題と経済成長が引き起こしている問題の1つに環境問題があります。都市部周辺の貧民街からの廃棄物や水源地汚染への対応、アマゾン地域で急速に進む森林破壊など、地球規模の問題への対応が急がれます。

資源と食糧を海外に依存している日本にとって、豊富な資源とさらに拡大する食糧生産供給力をもつ南米経済圏はきわめて重要な存在です。他方で、一次産

品の輸出に依存する経済からの脱却をめざす南米諸国は、日本の技術を必要としています。このように日本と南米は、経済的な補完関係にあるといっても過言ではありません。

メルコスール(南米南部共同市場)は、2003年12月にはアンデス共同体と自由貿易協定(FTA)を結び、インド、EUなどの域外諸国や共同体とも同様の交渉をしています。域内での技術協力事業(南南協力)も活発です。

移住者・日系人の存在

南米への協力を考えるとき、移住者・日系人社会の存在は欠かせません。南米への日本人移住には100年を超える歴史があり、移住者・日系人は現地地域社会の一員として、揺るぎない地位を確立しています。日系人は農業、保健医療、教育など各方面で活躍し、親日感情の醸成と、日本と移住先国との友好関係の構築に大きく貢献しています。

重点課題と取り組み

貧困削減と格差是正

JICAは南米地域の大部分の国が共有する貧困対策と格差是正に対して、政府や地方自治体のみならず、市民団体やほかのドナーとの連携を重視しながら支援しています。

ボリビアでは、無償資金協力で井戸を掘削した村落のなかからモデルサイトを選び、地元NGOと協力して村民による水管理委員会を組織し、料金徴収制度の強化、井戸オペレーターへの運営管理教育、衛生的な生活習慣の普及を進める「生命の水プロジェクト」を実施しています。

パラグアイでは、地方の小規模養蜂農家のハチミツ生産量を増加させる目的で「養蜂業多様化支援プロジェクト」を実施しています。また、このプロジェクトの一環で、初心者や文字を読めない養蜂家にも理解できるガイドブック『イラストによる養蜂技術』を出版し、養蜂業支援に努めています。

経済の持続的成長

貧困削減と格差是正に取り組むためには、地域と各国の経済成長によって雇用が増加するとともに、ガバナンスの向上を通じて人々の生活の質が改善されることが必要です。

アルゼンチンでは、「中小企業再生支援計画」の開発調査を実施しています。産業構造のなかでも重要な役割を占める中小企業を活性化させ、雇用を増加させるとともに、国際市場での競争力強化に必要な政策・施策を提言することをめざしています。また、エクアドルでは、機械・金属、電子・電気分野で優秀な人材を育成し、雇用増加に寄与することを目的に、「職業訓練改善計画プロジェクト」を行っています。

ペルーでは、農業生産の拡大をめざし、国際基準を満たす優良な種子を生産・流通させるための「種子の品質管理プロジェクト」を実施しています。

地球的規模の問題への取り組み

豊富な自然資源や食糧供給能力をもつ南米地域では、環境問題に代表されるような、国境を越えた課題への協力が重要です。

ウルグアイでは、「CDM植林実施能力強化プロジェクト」を実施しています。これは、植林関係者がCDM（クリーン開発メカニズム）植林プロジェクトを発掘・企画・承認・実行する能力を強化するためのものです。

アルゼンチンでは、オゾン層の観測やデータ分析に

必要な技術を移転し、これに必要な機材を設置する「オゾン層観測強化プロジェクト」を実施しています。これによって、南米中緯度・高緯度地域におけるオゾン層の現状を把握するために必要なデータ供給体制の強化をめざしています。

ブラジルでは、パラ州ペレーン市近郊にある、群馬県出身移住者が運営する熱帯雨林保護区「群馬の森」を中心に、自然環境教育活動を促進し、アグロフォレストリー技術を普及させるための「東部アマゾン森林保全・環境教育プロジェクト」を実施しています。

平和の構築と社会的弱者の支援

国内避難民や社会的弱者については、基礎的な生活基盤の復旧などを目的とした取り組みが必要です。

コロンビアでは、国内避難民や社会的弱者が集められている施設にボランティアが派遣されています。彼らは施設の子どもたちが将来に夢をもてるように、創造力の育成につながるレクリエーションや寸劇、さらに身近にある材料を利用した作品の制作を指導しています。また、左翼ゲリラやパラミタリー（極右非合法民兵組織）など、非合法組織から武装解除した元兵士の家族を支援している職業訓練庁と協力し、「投降兵士家族に対する職業訓練および起業支援」プロジェクトの実施に向けた調査を行っています。

チリでは、国内唯一の国立小児リハビリテーション病院のリハビリテーションサービスを改善するため、「身体障害者リハビリテーション」プロジェクトを実施しています。

1997年の地球温暖化防止京都議定書に盛り込まれた、先進国と途上国が共同で温室効果ガス排出削減を押し進める取り組み。工場等からの排出削減をめざす排出源CDMと、植林によりCO₂の吸収・固定をめざす吸収源CDMがある。



小児リハビリテーション病院の職員に対し、理学療法技術を指導する日本人専門家（チリ「身体障害者リハビリテーション」）

地域の動向や特徴をふまえた広域協力と南南協力の推進

南米地域は歴史、文化、言語に共通性をもっているため、地域内の関係がきわめて緊密です。そのため、地域共通の開発課題に対しては、地域相互の協力を通じた取り組みが重要です。

JICAでは、メルコスール各国の輸出競争力向上に貢献するため、域内での輸送条件を調査するとともに、合理的な包装設計基準や試験基準を設定するための「メルコスール域内産品流通のための包装技術向上支援調査」を実施しています。



「群馬の森」でのネイチャーゲームなど、環境教育研修の風景。開始から2年間で900人以上がこの研修を受講した(ブラジル「東部アマゾン森林保全・環境教育プロジェクト」)

また、アルゼンチン、ボリビア、パラグアイ、ウルグアイでは、家畜疾病診断にかかわる人材育成制度を確立し、人的連携と診断・疫学情報の共有に必要なネットワークを整備するため、「広域協力を通じた南米南部家畜衛生改善のための人材育成計画」を実施しています。

チリ(JCPP:日本・チリ・パートナーシップ・プログラム)、アルゼンチン(PPJA:日本・アルゼンチン・パートナーシップ・プログラム)、ブラジル(JBPP:日本・ブラジル・パートナーシップ・プログラム)では、各パートナーシップ・プログラムのもとで、多くの協力を展開しています。

日系人社会との連携

南米地域では数多くの日系人が多方面で活躍しており、地域開発や日本との友好・信頼関係の醸成に大きく貢献しています。日系人は国際協力分野における有能な人材であり、彼らとの連携は非常に有効です。

ブラジルでは、以前から日系人社会と連携して、日系人専門家を南米各国へ派遣しています。最近では、公用語が同じポルトガル語であるアフリカのアンゴラやモザンビークに対する技術協力に、日系人専門家を派遣する動きもあります。

Front Line パラグアイ・養蜂業多様化支援プロジェクト

輸出を視野に入れた養蜂業の振興と市場の確保

市場に売り込めるハチミツの生産

パラグアイはGDPの30%以上を農業生産に依存している農業立国であり、農業生産者の80%以上は小規模農家で、その多くが自給作物を中心に生産しています。JICAが養蜂技術を長年指導してきたため、現地では約7000戸の農家がハチミツを生産していますが、国際市場で受け入れられる品質のものは少なく、地元市場で細々と販売されているのが実情です。

JICAの「養蜂業多様化支援プロジェクト」では、小規模農家が市場に売り込めるハチミツを生産できるようにするだけでなく、付加価値の高いプロポリスを生産し、将来は海外に輸出できるように支援しています。ハチミツは1カ月でも手を抜くとたちまち生産量が落ちます。また、農家の信頼を得ながら生産者の組織化や販売方法を習得してもらうには、きめ細かな対応が必

要です。そのため、JICAは、隣国ブラジルの豊かな生産・販売経験をもつ日系人専門家を毎月2回パラグアイに派遣し、全国の5つのモデル農家グループを指導しています。その結果、プロジェクトの開始から1年でハチミツの収穫量は平均3倍に増えました。

日系人専門家同士の連携

しかし、生産量が急増すると、販売先の確保が大きな問題となります。そこでJICAでは、パラグアイの首都アスンシオンの中央卸売市場の運営を改善するため、ブラジルの日系人専門家を1人追加派遣しました。農家グループは、JICAの2人の専門家の連携による支援で、中央卸売市場に産地直送の販売所を獲得することに成功し、収入

も安定して、いまでは「プロポリスの生産と輸出」という将来の夢に向けた意欲と自信をもつようになっています。

このプロジェクトには、ほかのドナーからも「ぜひ手法を学びたい」という要望が寄せられており、他ドナーとの連携も含めて、今後の展開が期待されています。

(パラグアイ事務所)



ブラジルの日系人から養蜂の技術指導を受ける現地農家